

20年目の葉山

村山市立葉山中学校
学校だより
第10号
令和5年9月6日



『敬老の日』と『老人の日』

校長 富塚 義幸

9月の暦を見ていて気付いたことがあります。「知っている」という方にはつまらない話になりますが…) 9月15日が『老人の日』、9月18日が『敬老の日』とあります。『敬老の日』は祝日に当たりますが、『老人の日』はそうではありません。私が中学生の時、9月15日が『敬老の日』で祝日でした。調べてみました。国民の祝日に関する法律で、『敬老の日』は「多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し長寿を祝う日」で、9月の第3月曜日と定められています。9月の第3月曜日に変更されたのは、祝日の一部を月曜日に移動して土曜日・日曜日を含めて3連休の余暇を設けるハッピーマンデー制度（平成15年より適用）によります。しかし、9月15日を『敬老の日』とした歴史的な背景（『敬老の日』の由来）を、忘れないでほしいという願いや変更反対の声もあり、老人福祉法で新たに9月15日を『老人の日』と決めました。さて、私は毎年『敬老の日』を迎えると、亡くなった父方の祖母（祖父は私が生まれる前に亡くなっていたので…）と母方の祖父母のことをたくさん思い出そうにしています。祖父の思い出の記憶をたどります。

『祖父との思い出 ～蒸気機関車とそば屋～』

令和2年のヒット映画「劇場版『鬼滅の刃』無限列車編」の作品中に登場する蒸気機関車と同型式の8620形が山形市の第二公園に保存されています。映画の公開と同時に話題となりました。その近くに『第二公園 山長そば屋』があります。40年位前のことです。父の車を私が運転し、補聴器の修理のため祖父と一緒に村山市から山形市に朝から出かけました。別居している母方の祖父なので、二人で出かけるのは初めてでした。ペーパードライバーで運転経験の乏しい自分が運転しての小旅行です。補聴器の修理を終えて、村山市に戻ろうとしましたが道に迷ってしまいました。行きついた先は、第二公園でした。祖父は「ほ～う、蒸気機関車だ。」と言った後、山長そば屋を見つけて「あそごで食っていぐべ。」と言いました。「俺は、松長（松田長五郎の略）あそごは山長。うまいはずだ。」とにこにこ笑いながら話したので、私も大笑いしました。店に入り席に座ると、店員さんにおすすめを聞いて「俺は、五目ラーメン。」と注文しました。私は、隣の席で食べているお客さんの生ワサビが気になり「板そばを。」と注文しました。店員さんが五目ラーメンを祖父の前に置いたとき「てしょけねが。」と祖父が言いました。店員さんがきょとんとしていると「てしょよ。」と祖父。私は少し恥ずかしくなり、小声で「小さなお椀？」と言いました。店員さんが持ってくる。「んだんだ。ありがとう。」と言って、自分の五目ラーメンをそれに分けて「義幸、いっぱい食えな。」と私の前に置きました。初めて生ワサビを擦ったこと、板そばと五目ラーメンでお腹がいっぱいになったこと、店を出るとき「山長はやっぱりうまかった。」と嬉しそうに笑う祖父の顔、そして蒸気機関車…そう言えば、食事をしながら蒸気機関車に乗った時のことも懐かしそうに祖父は話してくれました。近いうちに、もう一度、第二公園の蒸気機関車と山長そば屋を訪ねたいです。

特集：夏休みのチャレンジ！“作品紹介”

.....県少年の主張村山地区大会“優秀賞”に輝いた芦野明日香さん（3年）の作品を紹介します。.....

＝『誇れる海を後世に』＝ 皆さん、海は好きですか？私は海で泳いだり、貝殻を探したりするのが大好きでよく海に行きます。潮風の匂いや、波の音、美しい海の色が心を落ち着かせてくれます。私は、この美しい海を後世に残していきたいと強く願っています。しかし今、美しい海は失われつつあることに気づかされました。それを強く感じたのは、4年前に行った飛島でのことでした。私は1泊2日で海の近くに泊まることにとてもワクワクしていました。1日目はきれいな海でシュノーケリングを楽しみました。透き通った海には、色とりどりの魚がたくさん泳いでいて、ウミネコの声が聞こえる幸せな空間でした。しかし、2日目、海は今、大きな問題に直面していることを目の当たりにしたのです。その日は海岸のゴミ拾いをするために違う海に行ったのですが、そこで私は絶句しました。なんと大量のゴミが流れついていたのです。よく見ると大半はプラスチックでハングル文字が書いてあるものや、ストロー、レジ袋、プラスチックの破片などでした。他にも漁業で使う網やカエルみたいなうきが大量に落ちていました。昨日見た海とは似ても似つかず、ゴミだらけの海岸に悲しさを覚えました。どうしてこんなことになっているんだろう。後日、私は調べてみました。毎年、海のごみは約1億5千万トンも漂っていることがわかりました。その8割は外国のもので、特に韓国から漂流してくるゴミが多いそうです。生ゴミの他、医療廃棄物など危険なものも多く問題となっています。韓国から流れてくるゴミによって怪我や、処分場のひっ迫に繋がっています。プラスチックのゴミは石油からできているので、絶対に自然に還りません。大きさが5mm以下であるマイクロプラスチックの誤飲が原因で、毎年100万羽の海鳥、10万匹の哺乳類、ウミガメ、魚が死んでいることも知りました。今、対策を立てなければ、海は死んでしまいます。みなさんはゴミだらけの海に行きたいですか？プラスチックだらけの魚を食べたいですか？減っていく生物を見殺しになんてできますか？このまま海のごみが増加し続けたら、2050年にはゴミの量が魚の量を上回ってしまいます。私はこの現状を変えたいと強く思い、すぐに実践したことがあります。それは、すでに多くの人が使用しているエコバックを使うようにしたことです。さらに、外国から漂流するゴミが日本の海を汚しているという事実から、世界中の人々に響くような抑止力をどう作り出していくのかが大きな課題となります。そこで私は、流れ着いたゴミについて調べたり取材したりしてSNSに写真を添えてインターネットにアップしようと準備しています。あの絶句した飛島の海岸が今どうなっているのかを現地の人やゴミ拾いを主催した人に聞いて、写真や情報のやりとりをしてそれをアップするのです。8割のゴミが、近隣諸国から流れ着いているものであるなら私はそれを見過ごすことはできません。その国の言葉で、「ゴミを海に捨てないで！」と訴えていきます。私には政治的な力も権力もありません。しかし、だからこそ、この情報化社会に生まれて、このネット環境を利用しない手はありません。みなさんは覚えているでしょうか。サッカーワールドカップでのスタンドのゴミ拾いをする日本人サポーターの姿を。大リーガーの大谷翔平選手が、「他の人が落としている運を、自分が拾っている」とグラウンドやベンチのゴミを拾っていることなど「ゴミ拾い」は今や海外でも有名になっている日本の誇るべき文化なのです。これを追い風に、私は世界の人々に「ゴミをポイ捨てしないで」と発信していきます。ゴミが最終的に行く着く所は海なのです。私の叫びを聞いて少しでも環境が汚染されていくことに嫌悪感を覚えた人、その問題を見知っている人は私と一緒に海外に訴えかけてみませんか。一人の声は小さくても、この声は確実に世界に繋がっています。今を生きる私達が行動するのが重要です。これから生まれてくる皆さんの子供や子孫に誇れるような海を後世に残していきましょう。